

コマツ
2016年度 第3四半期(4月-12月)
決算説明会
【電話会議】

2017年1月31日(火)

コマツ出席者

代表取締役副社長(兼)CFO 藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長 稲垣 泰弘

I. 2016年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要 <P4-P11>

- P4-6 : 2016年度第3四半期(4-12月)の概況・各セグメント売上高と利益
P7-8 : <建設機械・車両> 2016年度第3四半期(4-12月)の状況
P9 : <リテールファイナンス> 2016年度第3四半期(4-12月)の状況
P10 : <産業機械他> 2016年度第3四半期(4-12月)の状況
P11 : 連結貸借対照表

II. 2016年度の見通し <P13-P22>

- P13 : 2016年度の業績見通し(概況)
P14-19 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
P20-21 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の状況
P22 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高

参考資料 <P26-P34>

- P26-29 : 四半期毎の状況
P30-31 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕
P32-34 : 2016年度第3四半期(10-12月)の概況・各セグメント売上高と利益

I . 2016年度 第3四半期(4月-12月)決算の概要

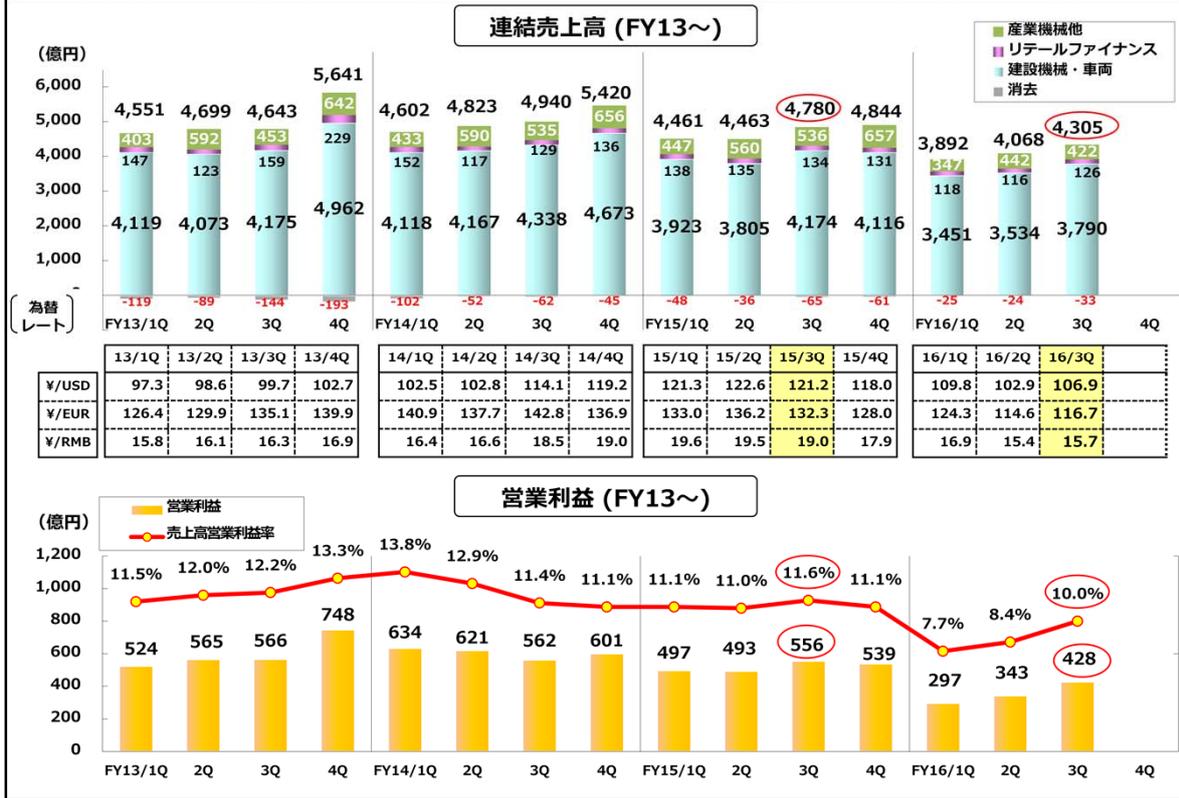
- ・連結売上高は前年同期比▲10.5%減収の1兆2,267億円。
- ・営業利益は前年同期比▲30.8%減益の1,070億円。売上高営業利益率は同▲2.6ポイント減の8.7%。
- ・純利益は前年同期比▲34.1%減益の683億円。

金額単位：億円	2015年4-12月 ¥121.7/USD ¥133.8/EUR ¥19.4/RMB	2016年4-12月 ¥106.5/USD ¥118.5/EUR ¥16.0/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	13,705	12,267	▲1,438	▲10.5%
セグメント利益	1,469	1,078	▲391	▲26.6%
その他の営業収益(▲費用)	76	▲8	▲85	-
営業利益	1,546	1,070	▲476	▲30.8%
売上高営業利益率	11.3%	8.7%	▲2.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲15	▲37	▲22	-
税引前純利益	1,531	1,032	▲499	▲32.6%
純利益*	1,037	683	▲354	▲34.1%

*米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- 為替レートは、1ドル：106.5円、1ユーロ：118.5円、1元：16.0円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円高となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円高となりました。
- 2016年度第3四半期の連結売上高は、前年同期比▲10.5%減収の1兆2,267億円、営業利益は▲30.8%減益の1,070億円となりました。営業利益率は▲2.6ポイント減の8.7%です。
- 売上高は、円高と産業機械他セグメントにおける物量減が影響しました。
- 純利益は▲34.1%減益の683億円です。

四半期毎の売上高と営業利益の推移



□2016年度は第1四半期に売上高・営業利益が大きく落ち込みましたが、第2、第3四半期と増収増益となり、第3四半期(3カ月)では営業利益率が10%となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は▲9.5%減収の10,777億円。セグメント利益は▲22.6%減益の965億円。セグメント利益率も▲1.5ポイント悪化し、9.0%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は▲11.4%減収の361億円。セグメント利益は▲37.2%減益の67億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲21.5%減収の1,212億円。セグメント利益は▲46.2%減益の64億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年4-12月		2016年4-12月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高		13,705		12,267	▲1,438	▲10.5%
建設機械・車両	(11,791)	11,903	(10,719)	10,777	(▲1,072) ▲1,126	(▲9.1%) ▲9.5%
リテールファイナンス	(385)	407	(343)	361	(▲41) ▲46	(▲10.9%) ▲11.4%
産業機械他	(1,528)	1,544	(1,204)	1,212	(▲323) ▲332	(▲21.2%) ▲21.5%
消去		▲150		▲83	+66	-
セグメント利益	□ 10.7%	1,469	□ 8.8%	1,078	▲391	▲26.6%
建設機械・車両	□ 10.5%	1,246	□ 9.0%	965	▲281	▲22.6%
リテールファイナンス	□ 26.4%	107	□ 18.7%	67	▲40	▲37.2%
産業機械他	□ 7.8%	119	□ 5.3%	64	▲55	▲46.2%
消去または全社		▲4		▲19	▲14	-

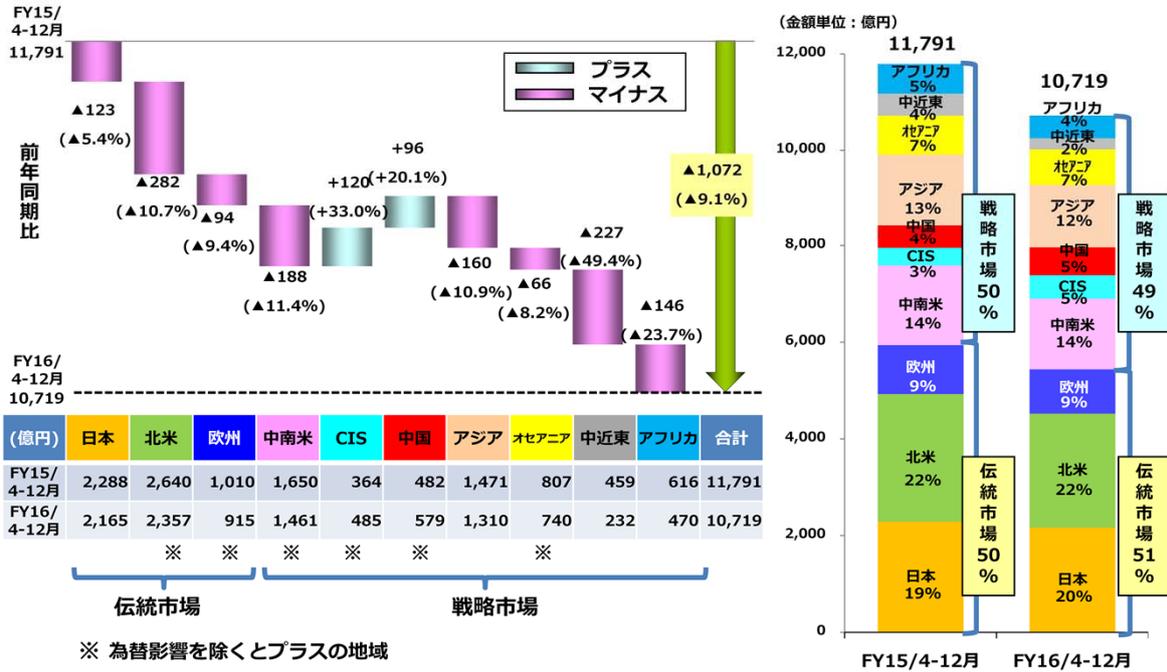
各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
需要が減少している北米、中近東などでの売上減少を中国やインドネシアで挽回したものの、円高の影響を受け減収減益。なお、為替影響を除いたベースでは増収。
- リテールファイナンス【2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立】
円高の影響と中国およびオセアニア等での資産減少の影響もあり、前年同期比で減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、前年同期比で減収減益。

(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲9.5%減収の1兆777億円、セグメント利益は▲22.6%減益の965億円となりました。需要が減少している北米、中近東などでの売上減少を中国やインドネシアで挽回したものの、円高の影響を受け売上げは前年同期を下回りました。なお、為替影響を除いたベースでは増収となりました。
- リテールファイナンスは、円高の影響ならびに中国およびオセアニアなどの資産の減少が影響し、売上高は前年同期比▲11.4%減収の361億円、セグメント利益は▲37.2%減益の67億円となりました。
- 産業機械他の売上高は、▲21.5%減収の1,212億円、セグメント利益は▲46.2%減益の64億円となりました。自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による減収が影響しました。

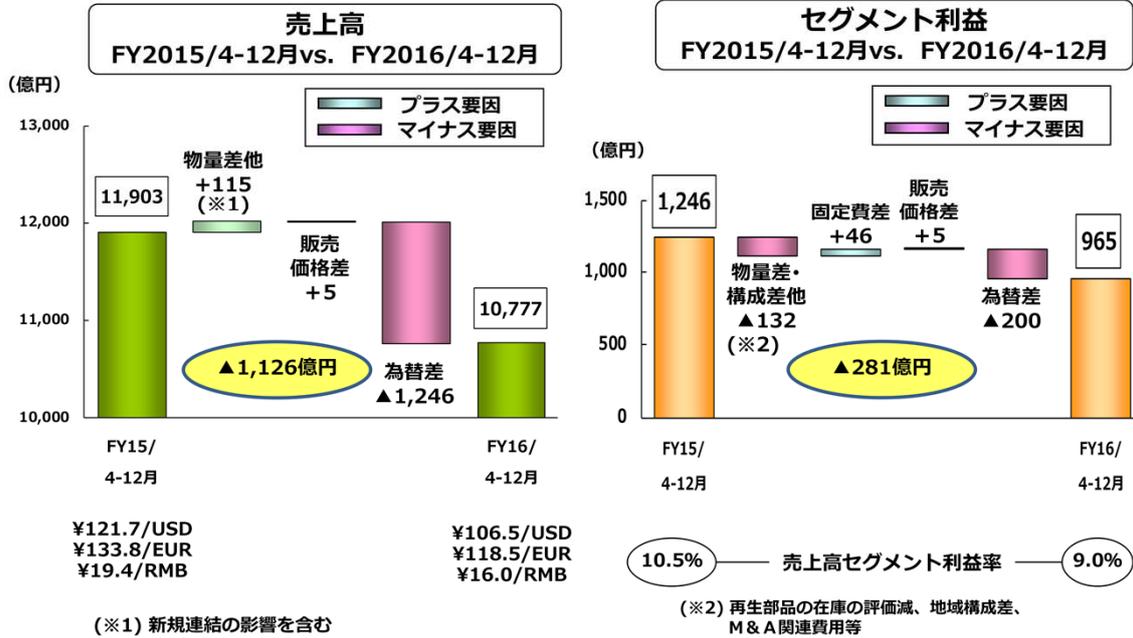
- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲9.1%減収の1兆719億円。
- ・CISと中国を除く地域で、売上高が減少。アジア・中近東等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が51%に増加。但し、為替影響を除くベースでは堅調な地域が多い。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲9.1%減収の1兆719億円となりました。

□円高の影響により、CISと中国を除く地域で売上高が減少しました。アジア・中近東等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が51%に増加しました。

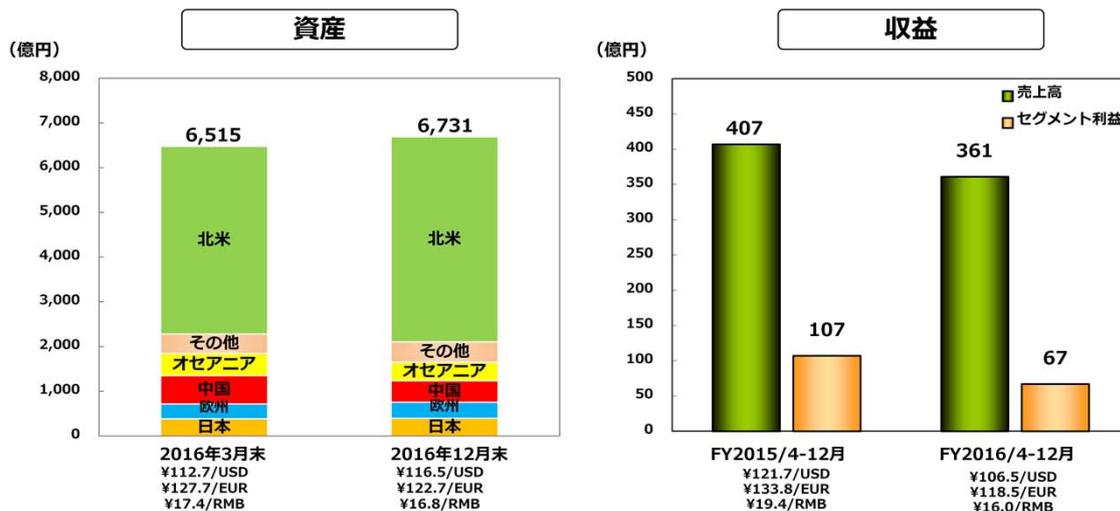
- ・円高の影響が大きく、売上高は前年同期比▲1,126億円の減収。セグメント利益も、同▲281億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲1.5ポイント悪化し9.0%。



□売上高は前年同期比▲1,126億円の減収です。円高による為替差が大きく影響しましたが、物量差他はプラスとなりました。

□セグメント利益については、前年同期比▲281億円の減益、利益率は前年同期比▲1.5ポイント悪化し、9.0%となりました。固定費の削減を行ったものの、円高によるマイナスなどが影響しました。

- ・資産は中国・オセアニアで減少した一方、北米・欧州等での積み増し及び為替の影響により、前年度末比+215億円増加。
- ・売上は為替の影響を受け減少。利益は中国で引当金を追加計上したこと等に伴い、前年同期比で減少

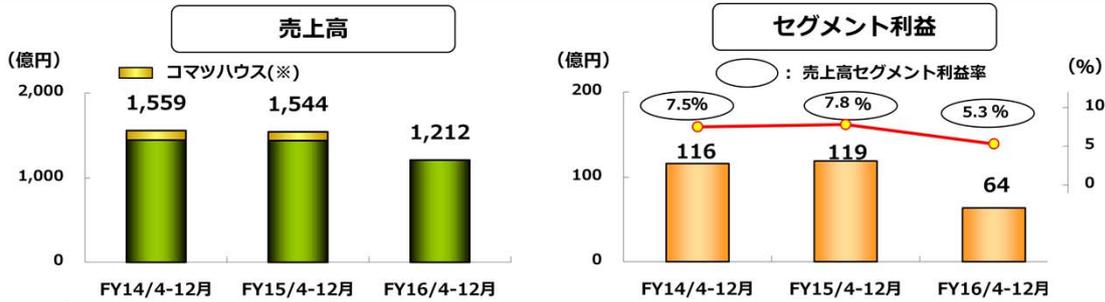


	2016/3E	2016/12E	2016/3E比
借入金	4,835	5,067	+232
ネットベースの借入金	4,766	5,020	+254
ネットD/Eレシオ	3.40	3.53	+0.13 [※] 引上

□リテールファイナンスの総資産は、前年度末に比べ+215億円増加し、6,731億円となりました。中国・オセアニアで減少し、北米・欧州等で増加しました。また、為替のプラス影響が+120億円含まれており、実質は+95億円の増加です。

□売上は為替の影響を受け減少。利益は中国で引当金を追加計上したこと等に伴い、前年同期比で減少となりました。

・自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、売上高は前年同期比▲21.5%減収の1,212億円、セグメント利益率は5.3%。



金額単位：億円	FY14/ 4-12月	FY15/ 4-12月	FY16/ 4-12月	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	429	404	365	▲39	▲9.8%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	525 [58]	517 [62]	335 [86]	▲182 [+24]	▲35.2% [+39.0%]
ギガフォトン	213	248	233	▲14	▲5.9%
コマツハウス(※)	113	103	-	▲103	-
その他	277	269	278	+8	+3.2%
合計	1,559	1,544	1,212	▲332	▲21.5%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□産業機械他部門は、自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による影響により、売上高は前年同期比▲21.5%減収の1,212億円となりました。

□セグメント利益は、売上減少の影響が響き、64億円、セグメント利益率は前年同期比で▲2.5ポイント減の5.3%となりました。

□自動車業界の設備投資が当初計画に対して遅れ気味となっており、案件の後ろ倒しの影響を受けております。「弱含みの状況にある」と言えます。

- ・ 総資産は、米ドルに対する円安の影響及び棚卸資産の増加により、前年度末比で+629億円の増加。
- ・ 株主資本比率は前年度末と同じ58.0%。

(金額単位：億円)	2016年3月末 ¥112.7/USD ¥127.7/EUR ¥17.4/RMB	2016年12月末 ¥116.5/USD ¥122.7/EUR ¥ 16.8/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,084	1,363	+278
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	8,753	8,809	+56
棚卸資産	5,396	5,921	+525
有形固定資産	6,977	6,863	▲113
その他資産	3,935	3,818	▲116
資産合計	26,146	26,776	+629
支払手形・買掛金	2,054	2,132	+78
借入金・社債 [b]	4,575	5,015	+439
その他負債	3,639	3,403	▲236
負債合計	10,268	10,551	+282
(株主資本比率)	(58.0%)	(58.0%)	(-)
株主資本	15,174	15,519	+345
非支配持分	703	705	+1
負債及び純資産合計	26,146	26,776	+629
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	3,490	3,651	+160
ネットD/Eレシオ	0.23	0.24	

□ 総資産は前年度末比で、+629億円増加しました。為替の影響が+291億円あり、これを除けば、実質は338億円の増加です。

□ 棚卸資産は、前年度末比で+525億円増加しておりますが、為替の影響が+95億円含まれている他、第4四半期に売上計上される分の仕掛り増加などが影響しております。

□ 同様に、借入金・社債についても+439億円増加しましたが、為替の影響が+92億円含まれております。

□ 株主資本比率は前年度末と同じ58.0%となりました。

Ⅱ. 2016年度の見通し

・2016年度通期の連結業績見通し(売上高・利益)は昨年4月の公表値を変更致しません。
 なお、個別業績予想については、売上高および利益を修正しております。

連結業績見通し

金額単位：億円	2015年度 ¥120.8/USD ¥132.4/EUR ¥19.0/RMB	2016年度 (4月公表値) ¥105/USD ¥119/EUR ¥16.2/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	18,549	16,850	▲1,699	▲9.2%
セグメント利益	2,020	1,550	▲470	▲23.3%
その他の営業収益(▲費用)	65	▲50	▲115	-
営業利益	2,085	1,500	▲585	▲28.1%
売上高営業利益率	11.2%	8.9%	▲2.3 ¹⁾ ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36	▲50	▲13	-
税引前純利益	2,048	1,450	▲598	▲29.2%
純利益*	1,374	920	▲454	▲33.1%
ROE	9.0%	6.2%	▲2.8 ¹⁾ ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	58円	±0円	
連結配当性向	39.8%	59.4%		

*米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

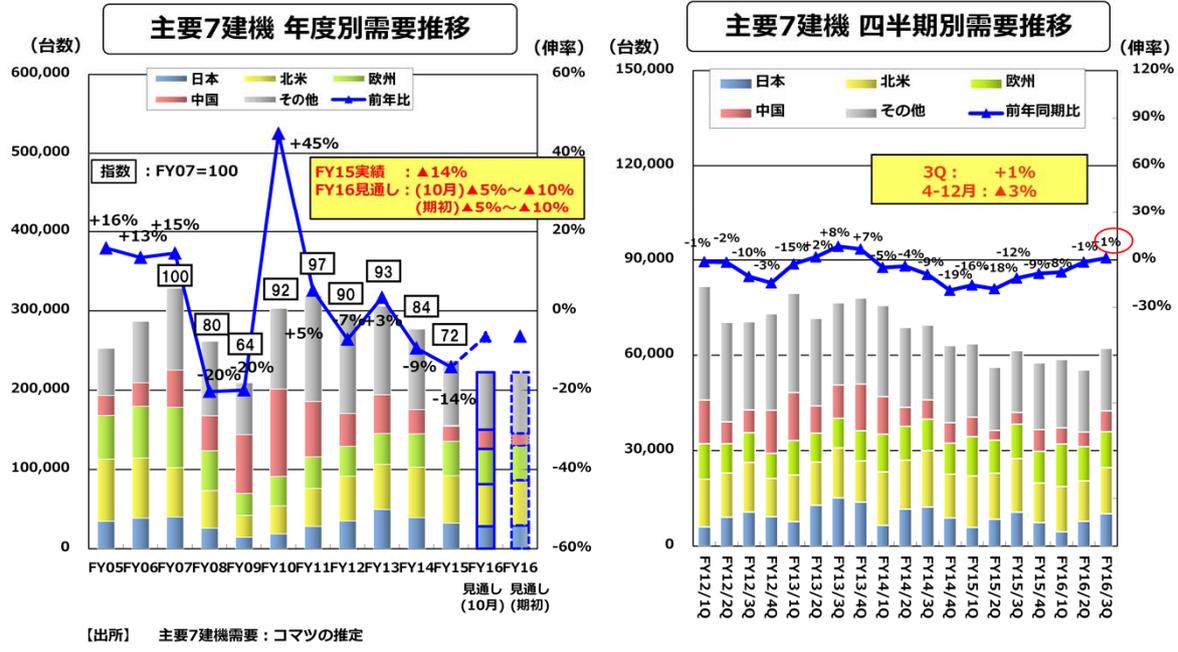
個別業績予想の修正

億円	前回発表 (4月)	今回修正 (1月)	増減	
売上高	6,170	6,670	+500	+8.1%
経常利益	460	670	+210	+45.7%
当期純利益	420	590	+170	+40.5%

□4月に公表した連結売上高・利益の見通しは変更致しません。

□なお、個別業績予想の修正に関してですが、建設機械・車両部門について、CIS、中国向けなどの販売が好調であることから、今回、予想の修正を行いました。

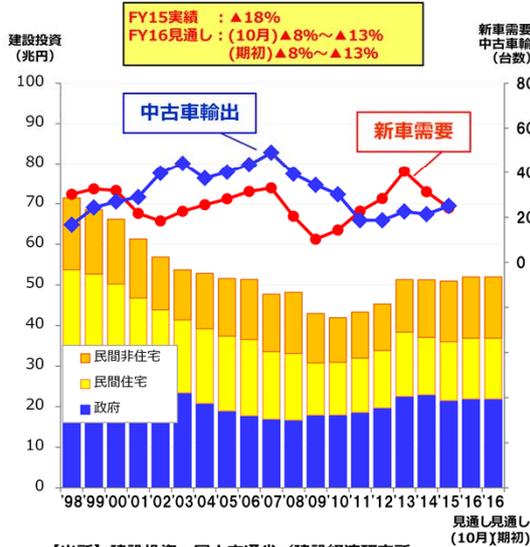
- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比+1%。
- ・北米、中近東などで需要が減少したものの、中国やインドネシアなどで上向き、全体としてはほぼ横ばい。
- ・年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがあるが、全体として期初見通しから変更無し。



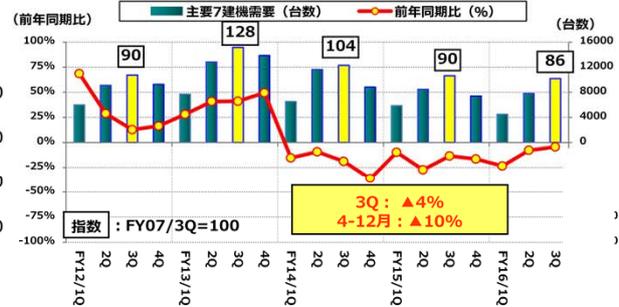
- 2016年度第3四半期(3ヶ月間)の世界需要は前年同期比+1%の増加となった模様です。
- 北米、中近東などで需要が減少したものの、中国やインドネシアなどで上向き、全体としてはほぼ横ばいとなりました。
- 年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがありますが、全体としては期初見通しに変更ございません。

- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比▲4%。
- ・レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が継続。
- ・年間の需要は、期初見通しから変更なし。

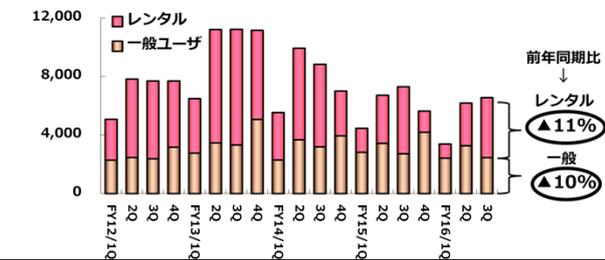
新車需要（主要7建機）と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移



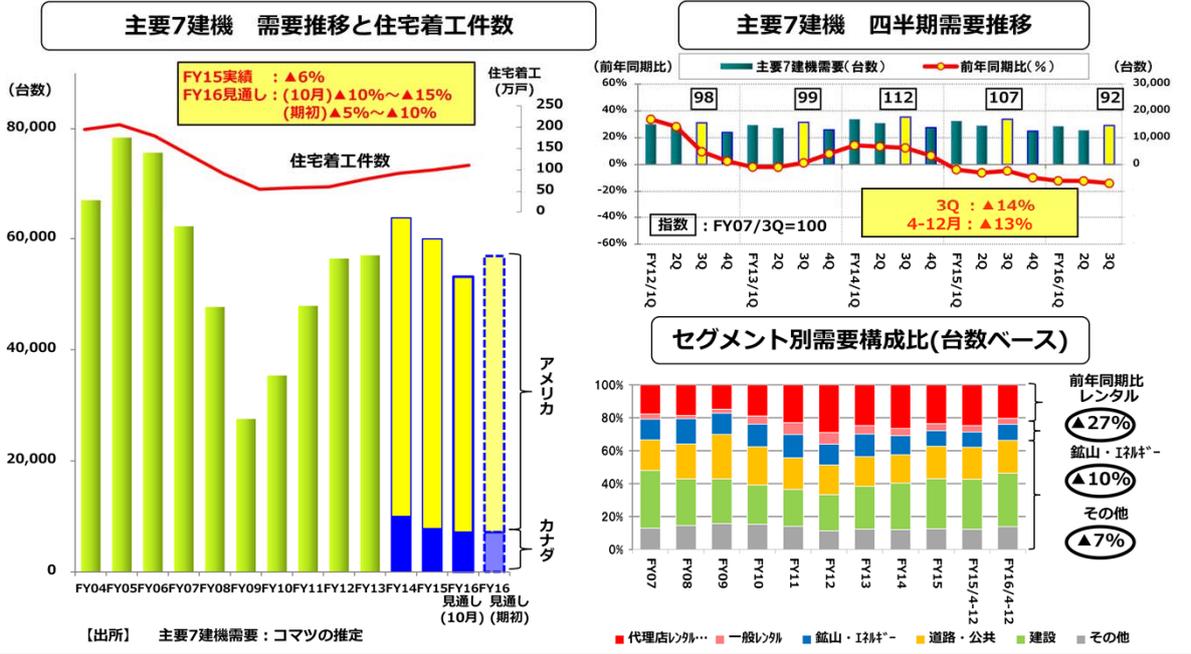
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



□2016年度第3四半期の日本の需要台数は、前年同期比▲4%減少しました。

□レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が続いています。

- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比▲14%。
- ・アメリカにおいて、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けは低迷。
- ・カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷。
- ・年間の需要は、10月公表時と同レベルの見通し。



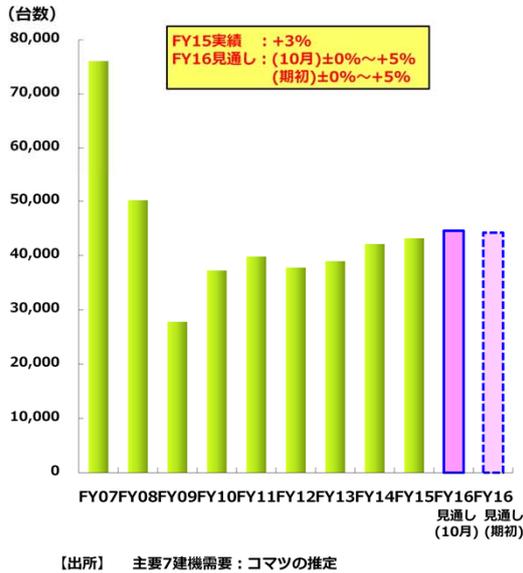
□ 2016年度第3四半期の北米の需要は、前年同期比で▲14%減少しました。

□ アメリカでは、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けが低迷しました。

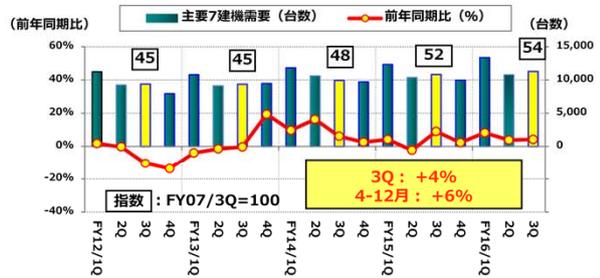
□ カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷しています。

- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比+4%。
- ・主要市場のドイツに加え、北欧・南欧が堅調に推移。
- ・年間の需要は、期初見通しから変更無し。

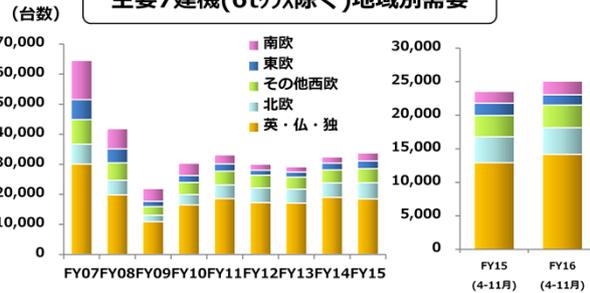
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



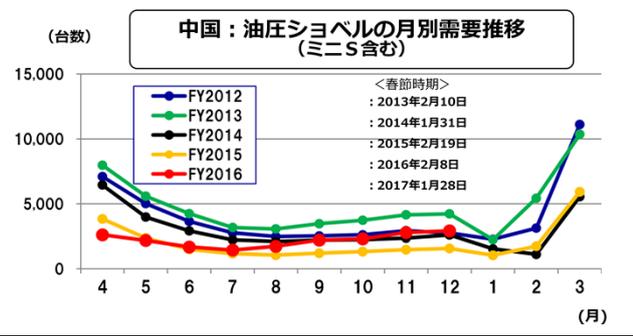
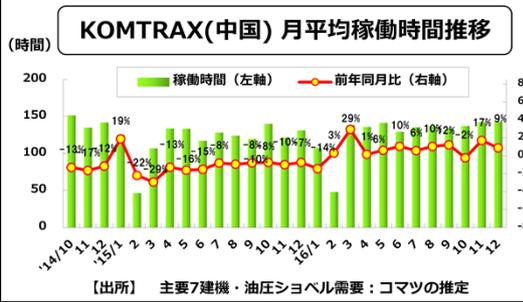
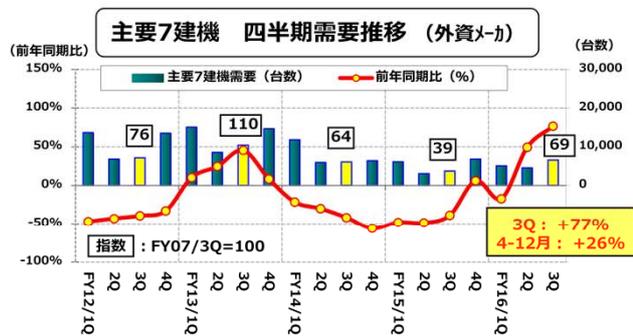
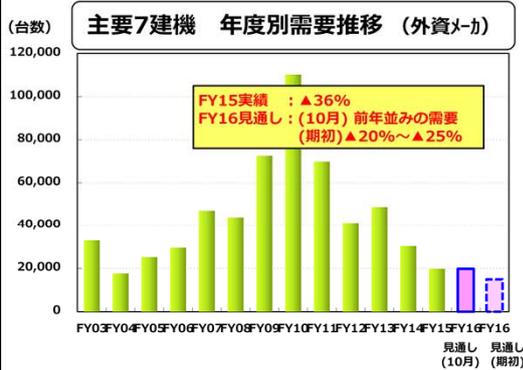
主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



□2016年度第3四半期の需要は、前年同期比+4%増加となった模様です。

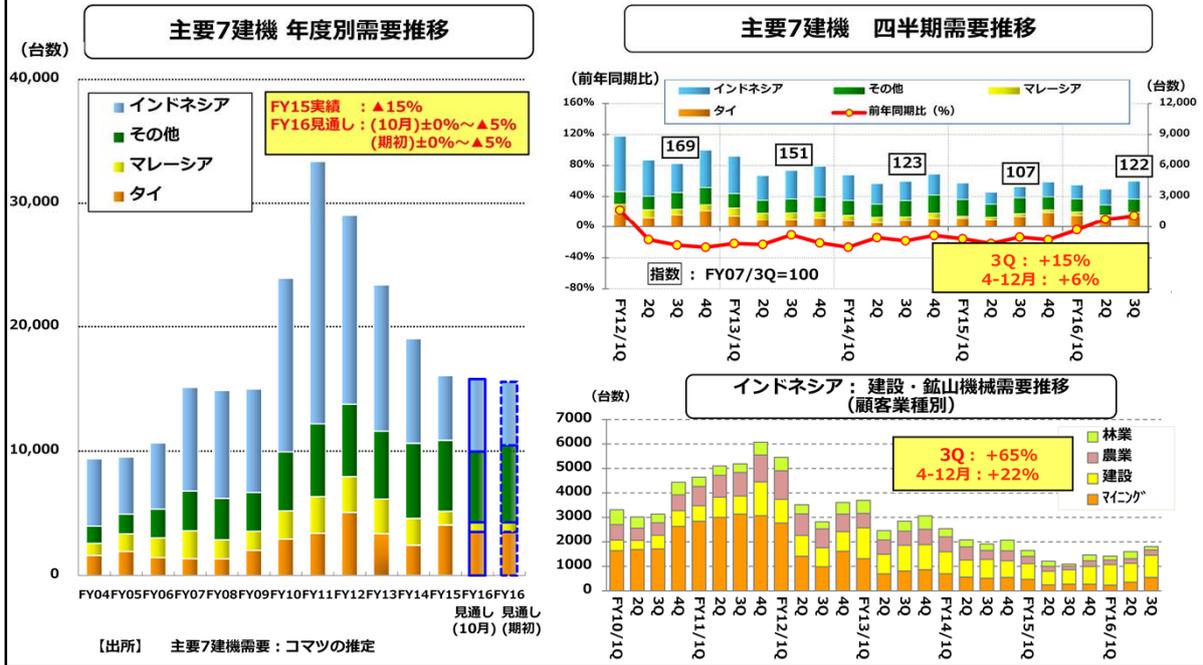
□主要市場のドイツや、北欧、南欧も堅調に推移しました。

- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比+77%。
- ・全国的にインフラ工事が進行し、一般建機の需要が伸長。
- ・年間の需要は、足元の需要が高まっているが10月見通しから変更なし。



□2016年度第3四半期の中国の需要は、全国的にインフラ工事が進行したことにより一般建機の需要が伸長し、前年同期比+77%の増加となりました。

- ・2016年度第3四半期の需要は、前年同期比+15%。
- ・最大市場のインドネシアでは想定より需要が堅調だったことに加え、タイやマレーシアが堅調に推移。
- ・年間の需要見通しは、期初想定から変更なし。

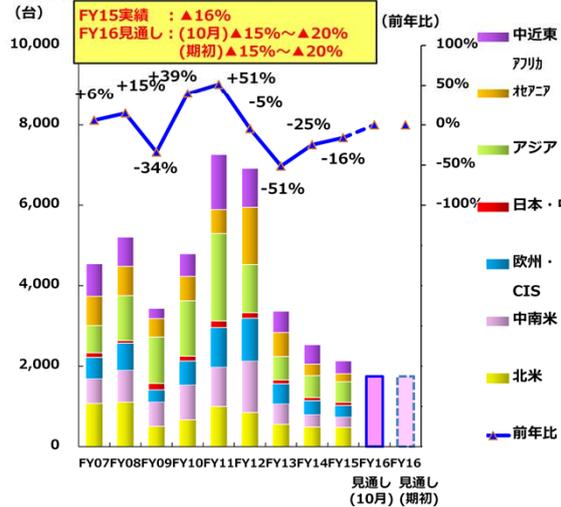


- 2016年度第3四半期の東南アジアの需要は、前年同期比+15%増加となりました。
- 最大市場のインドネシアで、まだ低い水準ではありますが、想定より需要が堅調だったことに加え、タイやマレーシアも堅調でした。

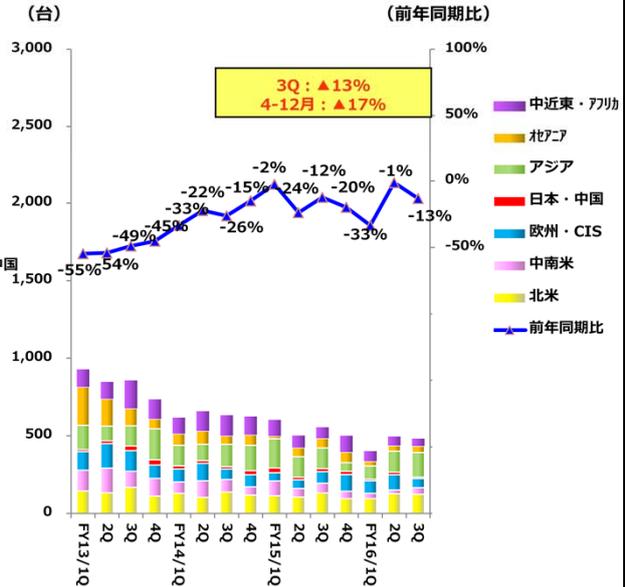
- ・2016年度第3四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比▲13%。
- ・年間の鉱山機械の需要は、期初見通しから変更無し。

鉱山機械 年度別需要推移

・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・アムホーサー：525HP (D375) 以上
 ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイローラ：810HP (WA800) 以上
 ・モーターレータ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移

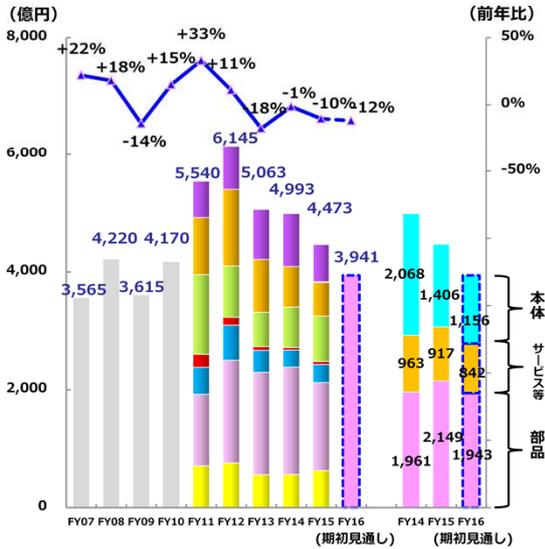


□2016年度第3四半期の鉱山機械の需要は前年同期比▲13%減となった模様です。

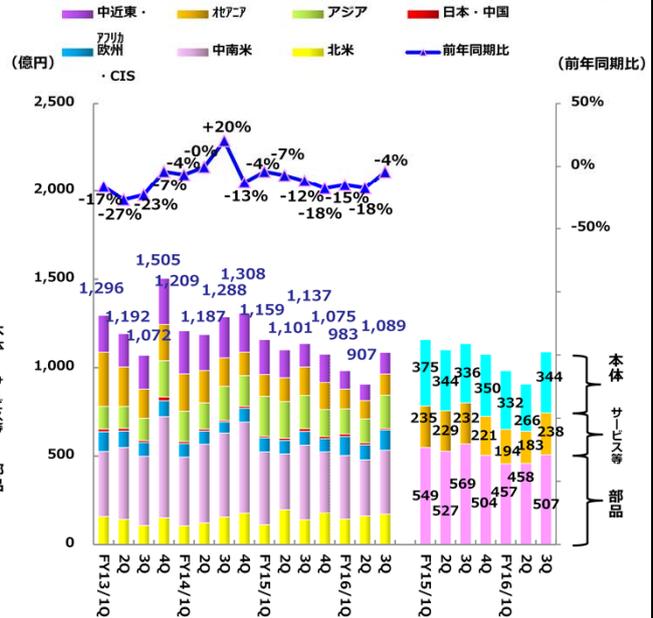
□2016年に入ってから鉱山機械市場は、ポジティブな面とネガティブな面が交錯する状況となっていますが、本年度の新車需要の見通しについては4月公表時から変更ございません。鉱山機械の需要の回復開始は2017年度以降になると考えております。

・2016年度第3四半期の売上高は、主に円高の影響で前年同期比▲4%減の1,089億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)

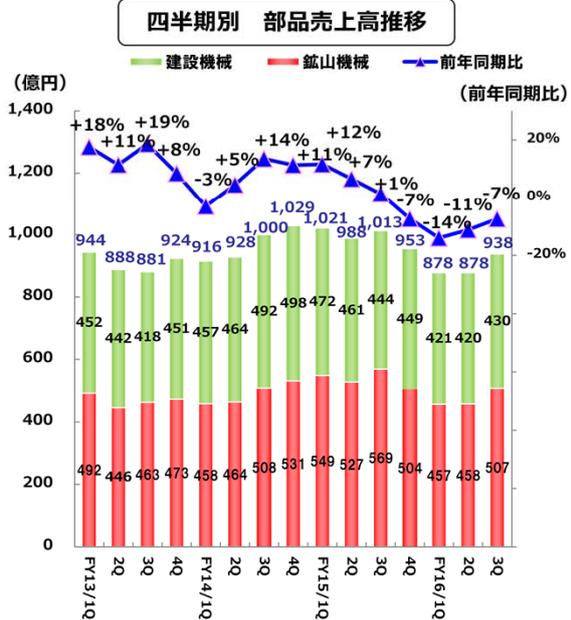


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)



□2016年度第3四半期の鉱山機械の売上高は、前年同期比▲4%減の1,089億円、為替の影響を除くと+7%の増加となりました。本体・サービスの売り上げが増加したことによるものです。

- ・ 2016年度第3四半期の部品売上高は、前年同期比▲7%。
- ・ 主に円高の影響で部品売上高は減少しているが、為替影響を除くと堅調に推移。



□ 2016年第3四半期の部品の売上高は、前年同期比▲7%減少の938億円、為替の影響を除くと+3%増となりました。内訳は一般建機が+7%増、鉱山機械は▲1%減です。

- ・タイに『アジア トレーニング&デモンストレーションセンター』を開設し、2016年11月より、トレーニング活動を開始。
- ・本年度よりスタートした中期経営計画におけるアジア事業強化の一環として、代理店の人材育成を強かに支援。来年度以降、年間延べ2,000人以上の代理店並びにお客さまのご利用を見込む。

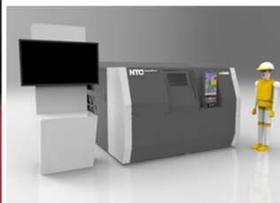


[アジア トレーニング&デモンストレーションセンターの概要の概要]

- ・所在地: 10/9 Moo 5, TambonTha Sa-An, Aumpher Bang Pakong, Chachoengsao, Thailand 24130
- ・敷地面積: 77,392m²
- ・投資額: 25億円
- ・主な設備: ワークショップ(実機整備・修理技術のトレーニングエリア)、デモンストレーションおよび運転操作訓練エリア、実機、教室、多目的ホール、観覧室(デモンストレーション)、ラウンジ等



工程集約・高効率化を実現する
次世代マシニングセンタ
NX400(左) NX420(右)



超高速・高精度加工と省スペースを両立させた次世代プロファイル研削盤 PX3560

・コマツNTC株式会社は、2016年11月、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「JIMTOF2016」(第28回日本国際工作機械見本市)に最新鋭の工作機械を出展しました。

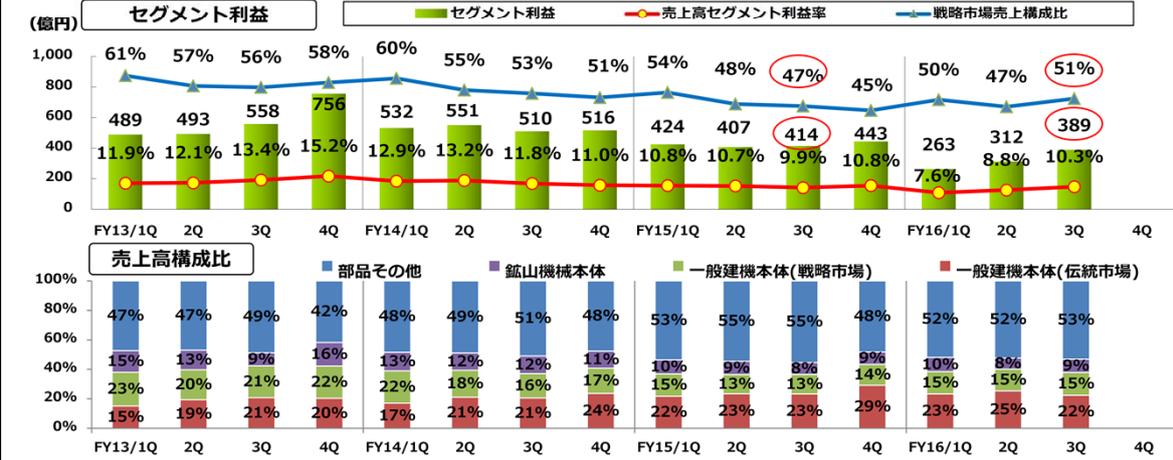
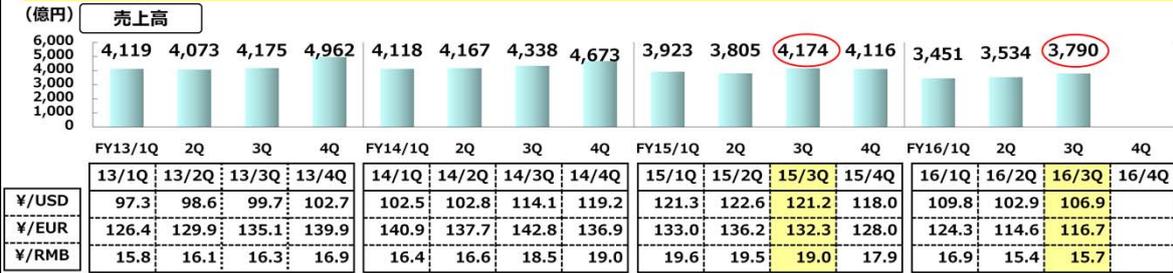
【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

参考資料

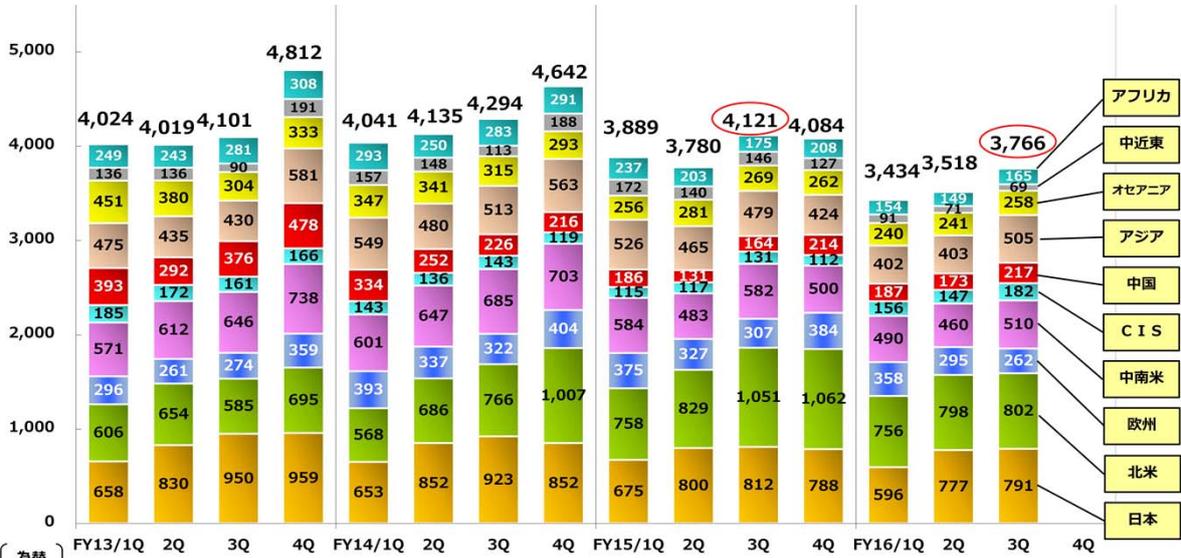
2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も適宜して組替表示しております。



<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も遡及して組替表示しております。

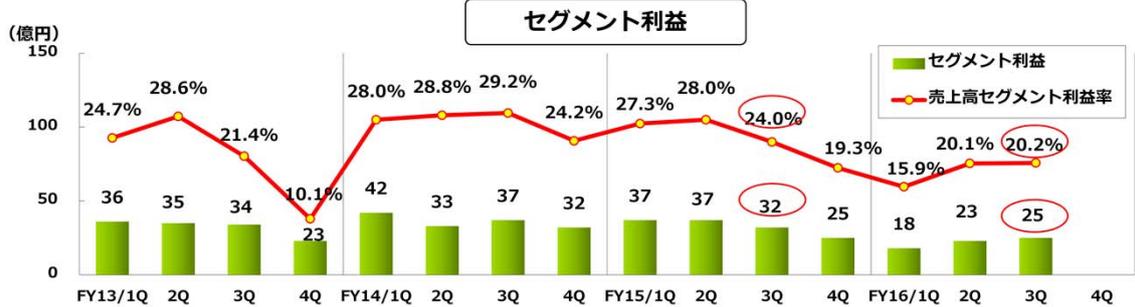
(億円)

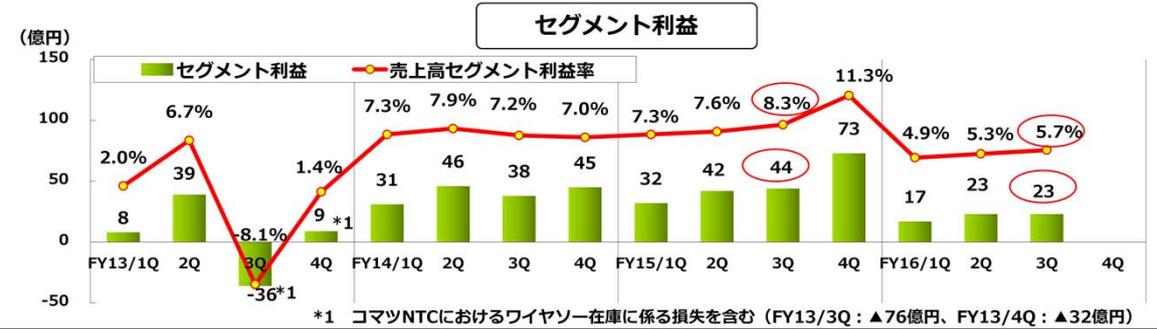
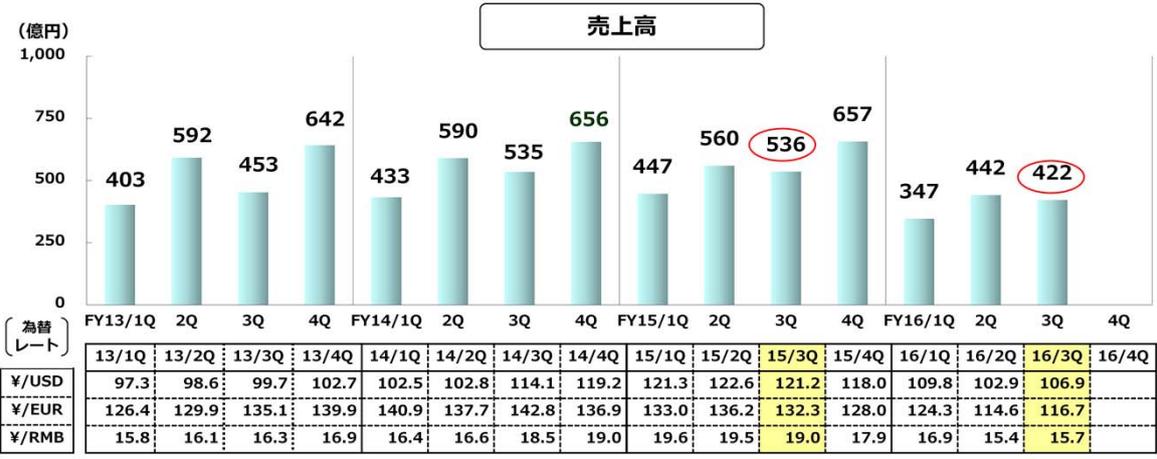


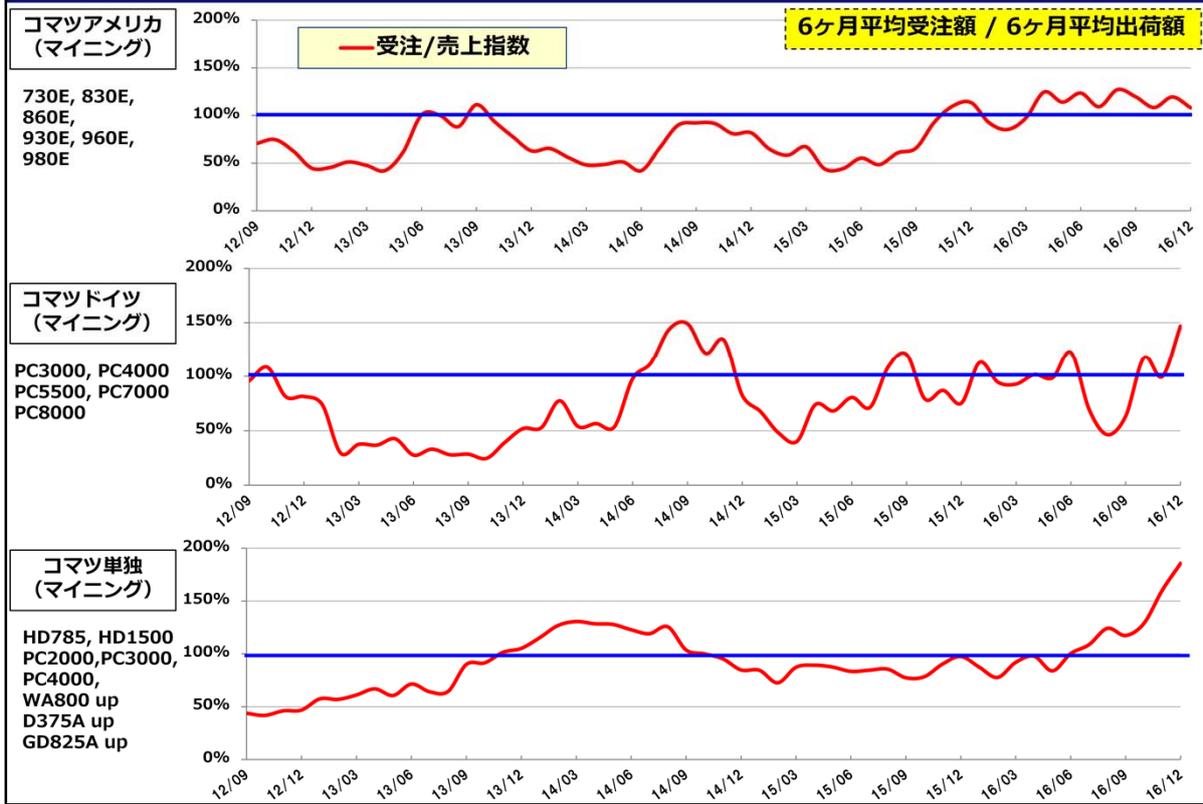
為替レート	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q
¥/USD	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	
¥/EUR	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	
¥/RMB	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	



為替レート	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q
¥/USD	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	
¥/EUR	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	
¥/RMB	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	

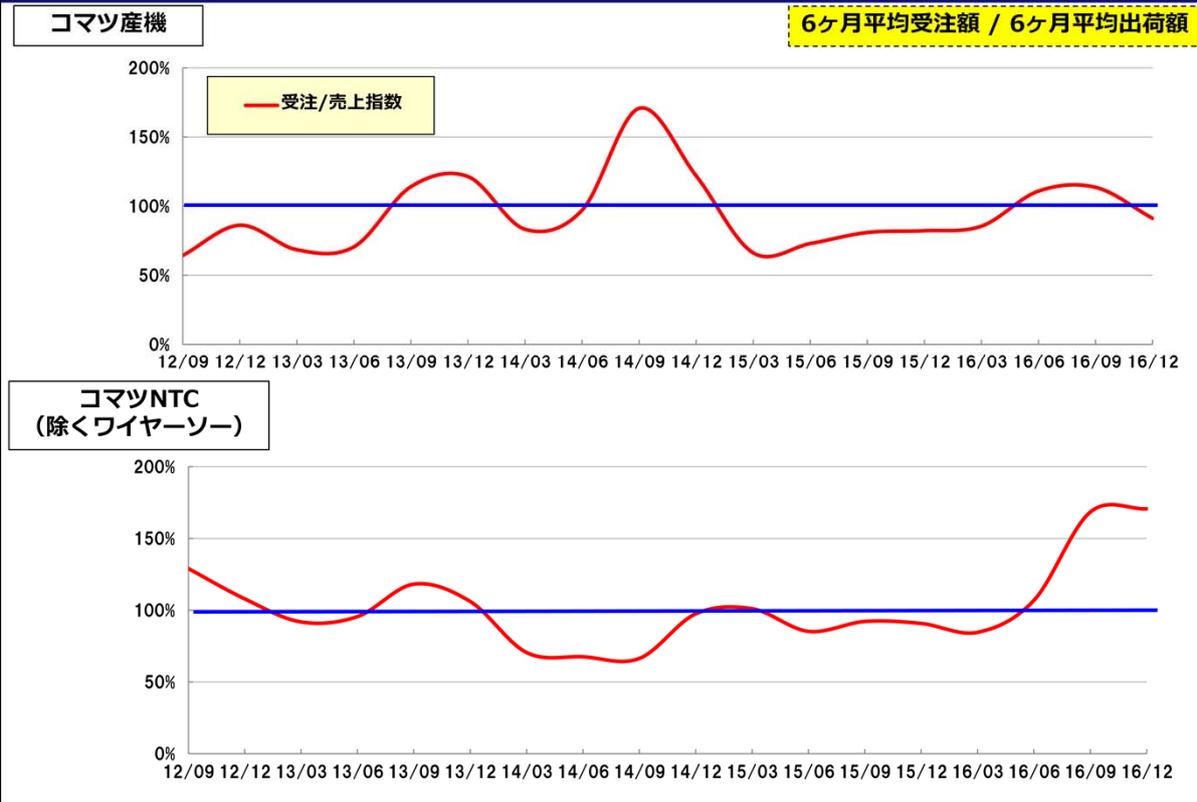






□ 鉱山機械本体の、受注と売上の指数の推移を示しております。

□ グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

- ・連結売上高は前年同期比▲9.9%減収の4,305億円。
- ・営業利益は前年同期比▲22.9%減益の428億円。売上高営業利益率は同▲1.6ポイント減の10.0%。
- ・純利益は前年同期比▲20.3%減益の308億円。

金額単位：億円	2015年10-12月 ¥121.2/USD ¥132.3/EUR ¥19.0/RMB	2016年10-12月 ¥106.9/USD ¥116.7/EUR ¥15.7/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,780	4,305	▲474	▲9.9%
セグメント利益	485	436	▲49	▲10.2%
その他の営業収益(▲費用)	70	▲7	▲77	-
営業利益	556	428	▲127	▲22.9%
売上高営業利益率	11.6%	10.0%	▲1.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲3	22	+26	-
税引前純利益	552	451	▲101	▲18.3%
純利益*	386	308	▲78	▲20.3%

*米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- ・建設機械・車両部門の売上高は▲9.2%減収の3,790億円。セグメント利益は▲6.1%減益の389億円。セグメント利益率は0.4ポイント改善し、10.3%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は▲5.9%減収の126億円。セグメント利益は▲21.1%減益の25億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲21.3%減収の422億円。セグメント利益は▲46.4%減益の23億円。

□% : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年10-12月		2016年10-12月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高		4,780		4,305	▲474	▲9.9%
建設機械・車両	(4,121)	4,174	(3,766)	3,790	(▲355)▲383	(▲8.6%)▲9.2%
リテールファイナンス	(126)	134	(120)	126	(▲6)▲7	(▲5.0%)▲5.9%
産業機械他	(532)	536	(419)	422	(▲112)▲114	(▲21.2%)▲21.3%
消去		▲65		▲33	+32	-
セグメント利益	10.2%	485	10.1%	436	▲49	▲10.2%
建設機械・車両	9.9%	414	10.3%	389	▲25	▲6.1%
リテールファイナンス	24.0%	32	20.2%	25	▲6	▲21.1%
産業機械他	8.3%	44	5.7%	23	▲20	▲46.4%
消去または全社		▲5		▲2	+2	-

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲8.6%減収の3,766億円。
- ・CIS、中国、アジアを除く地域で、売上が減少。北米の減少の影響が大きく、伝統市場の比率は49%に減少。

